

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：平成30年9月15日(土)
(2018年)



地域企業紹介 57

ノーブル電子工業株式会社

「自動制御盤」が創る”快適空間” 未来へ～そして 世界へ!!

高層ビルをはじめ建物の空調自動制御(BA)及び工場・生産ラインの自動制御(FA)関連業務の受託を主業とするノーブル電子工業株式会社の土橋恒一社長を綾瀬市上土棚の本社工場に訪ねました。

BAS(ビルディング・オートメーション・システム)は、空調設備、電気設備、給排水衛生設備、防災、防犯設備並びにエレベータなどの機械設備を総合的に管理するシステムのことで、先端的な情報処理、通信技術が必要とされている。運転制御機能、監視・表示、記録機能、計測機能、データ処理機能などにより、室内環境の最適化、省エネの実現、防災防犯設備の監視、建物管理の省力化などに効果が高く、高層ビルには欠かせないシステムだ。

また、FAS(ファクトリー・オートメーション・システム)は、工場における生産工程の自動化を図るシステムのことで、産業用ロボットを多用して、人間による作業ミスの削減、作業効率、人間に対する安全性の向上などが図られる。現在、製造業におけるFAS導入の目的は、生産性向上やコスト低減だけではなく、品質向上や製造工程の柔軟性向上など多岐にわたっている。今やFASは生産年齢人口の減少に伴う様々な課題を抱えている日本をはじめ、世界各国においても非常に重要な役割を担っているといえるだろう。

このように重要な役割を担う各システムにおいて、異なる条件にある建物・工場に対して、高い技術力と提案力に基づき、お客様の様々なニーズに合わせ、「ソフト&ハードウェア設計→製造→現地サポート→アフターメンテナンス」までを一貫して行えることがノーブル電子工業の大きな強みだ。具体的には電機部品の塊である制御盤やコントローラーと呼ばれる中身のソフトウェアの設計・製造を行っており、設計製造した制御盤とソフトウェアをひとつの箱に入れ、配線をつけて現地のビルに持って行き設置することが当社の主な仕事ですと話す土橋社長。また、高層ビルは窓が開かないケースが多く、消防法でも空調設備の整備は厳しく指導されている。一般的に空調といえばエアコンを思い浮かべるが、通常のエアコンをそのまま使用すると効率面やコスト面に支障が生じる。従って、この問題をクリアするためにはシステム的に自動制御することがとても重要になってくるのだ。さらに同一ビル内には事務室のほか、レストランなどの飲食店、歯科医院や手術室などのメディカル系もあり、それぞれの用途に合わせた快適な空調環境が求められる。

ノーブル電子工業株式会社

代表取締役 土橋 恒一 (とばし こういち)

所在地：綾瀬市上土棚北 4-9-16

従業員数：120名

資本金：2000万円

事業内容：建物の空調自動制御(BA)及び工場・生産ラインの自動制御(FA)関連業務の受託、中央監視システム、自動制御盤の設計・製造、制御ソフトウェアの設計・製作、制御機器の修理・検査及び現地改造作業、各種オーダーメイド製作の受託

URL: <http://www.noble-ele.co.jp/index.html>

その他、工場や研究開発室のある建物では、空調による緻密なレベルコントロールが要求されるクリーンルームや無菌室では最適な空調環境の構築のために圧力制御システムが駆使されている。このように、ひとつひとつのビルは全て違う為、同社の手掛ける製品は、ひとつも同じものがないフルオーダーメイド品となるのだ。また、人間も定期健診が必要なように、同社では現地サポート態勢とアフターメンテナンスも優秀なスタッフを配置し充実させている。現在、高層ビルが立ち並ぶ東京の丸の内・大手町、横浜みなとみらいの全域を営業基盤とし、地下にある熱源プラントの自動制御盤関連を含め、東京スカイツリーなども手掛けている成長企業だ。

そんなノーブル電子工業を率いるのが、二代目社長の土橋恒一氏だ。土橋社長は1966年川崎市の出身、幼稚園年長の頃に綾瀬市に移ってきた。地元の小中高等学校を経て、産廃会社でトラックの運転手をしていたところ、そこの社長に「君は大学へ行って勉強すべき」と一喝された。一念発起して大学を受験し、みごと駒沢大学経営学部経営学科へ入学した。そんな経緯もあり、学生時代の4年間は「しっかり勉強すること」「好きなバイクで日本一周すること」を自主目標に掲げ、チャレンジ精神旺盛な土橋社長は、そのいずれも成し遂げたそう。その甲斐あってか成績はほとんど「優」、特に簿記を修得したことが、経営者になった今、大きく役立っているという。学生時代の集大成はアメリカ主要都市(ニューヨーク・サンフランシスコなど)を巡る卒業旅行を敢行、その時、英会話の重要

性を痛感し大いに勉強した。その結果、現在ではベトナムにおける商談や社内統制はすべて英語で行っている。ちなみに、音楽のレゲエが大好きで、25歳の時にはドレッドヘアでジャマイカに渡ったそう。その後、大手電気機器メーカーに就職するも仕事の“やりがい”が見いだせず4年で退社。その後、設計会社で電気設計の基礎を学び、1997年に実父に頼まれて同社に入社した。専務として入社したものの2年間は給料ゼロ!3年目でも年収で60万円しかもらえず「父に騙された」と笑いながら話す土橋社長。

そんな土橋社長が先代(父)から事業を引き継いだのは2011年12月。もともと事業を承継する気はなかったそうだが、先代が「事業を承継しないなら廃業する」との一言に「もったいない」と思い引き継いだそう。当時の従業員は4人、業況はかなり厳しかったとその当時は振り返る。1967年3月、ノーブル電工として自動制御盤の組み立て・配線一本でやってきたが、事業承継を機にソフトウェア開発や海外展開などの様々な事業戦略を実践し、現在では綾瀬市本社のほかに国内に3拠点、海外ではベトナムに現地法人を設け、従業員数は120人を超す規模まで大きく成長させた。揺るぎないチャレンジ精神と現場を重視する土橋社長の会社経営のベースには、常に“人”を大切にす、“人”に感謝するという想いが強く込められている。現在、ネクストベトナムに向けた取組を思案中であり、国内はもとより海外へ大きく羽ばたくノーブル電子工業、そして24時間365日、会社と仕事のことしか考えていない土橋社長のチャレンジに終わりはなさそう。

「新たなチャレンジ、それは、未来のために」

株式会社イノウエ



昭和3年に創業し、本社を相模原市緑区鳥屋に置く株式会社イノウエの井上毅社長にお話を伺いました。

同社は、地場産業であった製紐業、いわゆる組み紐の製造を生業としながら事業を拡大させてきました。昭和50年代には女性のおしゃれ感覚の変化を捉え、ヘアゴム市場に参入。まずは黒色のみだったヘアゴムにカラーバリエーションを持たせ、さらに独自技術を活かして「継ぎ目のないヘアゴム」を開発して市場を拡大し、国内外の広く多くの顧客から選ばれ続

ける国内トップシェア企業となりました。

3代目である井上毅社長は、ものづくり企業であるイノウエのさらなる成長を目指し、業種・業態を超えて取引先を拡大し、顧客満足の追求、女性が働きやすい職場づくりや残業のない業務体制の構築に精力的に取り組んでいます。

同社では、『ヨコハマトリエンナーレ2017』でデザイナーと共同開発した組み紐アクセサリ「ittaYO(イッタヨ)」を発売するなど、新たな自社ブランド商品の開発として、女性向けのアクセサリの企画や事業化に向けたプロジェクトを進めています。さりげないおしゃれアイテムとしてのヘアゴム開発のターゲットとしたのは「働く女性」。仕事であっても美しくありたい、また、身につけるものから元気をもらったり、勇気づけられたりと、イノウエのアクセサリが働く女性を応援するそん

なプロジェクトです。

センター内のイノウエのオフィスは、「将来のイノウエをつくる場所」なのだと言います。井上社長は話します。素材そのものから、可能な限りこだわった商品作りを心がけ、デザインや斬新さだけではなく90年と言う確かな技術の歴史のうえに新しいものが生まれてくることを忘れず、今日も世界中の働く女性に向けた商品をこの相模原から送り届けるために社員一丸となって取り組んでいます。





What is “Incubation”?

SICの特徴ある事業とその担当者の紹介を通じ、インキュベーションセンターとは何かをお伝えしています。「地域での産業創出の取り組み」についてご紹介します。

1. ビジネス・インキュベーション

1959年、アメリカ・ニューヨーク州バタビアという町で、ジョセフ・マンキューソさんが古い工場を小分けに改修し貸しオフィスとして創業者に低廉で提供し、事業が軌道に乗るよう経営相談を行ったことが起源とされ、多くの国々で活用されています。

日本では、1980年代後半から第1世代のビジネス・インキュベータが整備され、SICは、バブル崩壊後の新事業創出を担う経済施策にもとづき2000年にSIC-1をオープンさせ本格的な活動を開始しました。その後、国内では数多くのインキュベーション施設が開設されてきました。

で15年目を迎えます。

平成27年度からは、ものづくり企業の自動化・生産性向上を進めるために、産業用ロボット導入支援事業に取り組んでいます。中小企業へのロボット導入には、自動化システムの最適な提案、製作、設置、運用を担うシステムインテグレータが不可欠にも関わらず不足しているため、昨年度から養成講座を開始し、今年は12月に開講予定です。



来る10月2日には、7月に設立された「FA・システムインテグレータ協会」の方々などをお迎えし、「第2回産業用ロボットビジネスフォーラム」を開催します。

ところで、国内ビジネスインキュベーションの発展を目的とするJ BIA (日本ビジネス・インキュベーション協会)では、ビジネス・インキュベーションを広義では「産業創造」を指すと言います。起業家が個々に取り組む新事業への支援だけでなく、地域において新しい産業を創出していく産業創造までを包含するという概念です。

SICが取り組む地域産業振興に関わる活動も、こうした広義の「ビジネス・インキュベーション」と言えそうです。

2. SICでの産業創出の取り組み

入居者・地域企業の皆様のさらなる成長・躍進に向けて、IM(インキュベーション・マネージャー)が専門家の方々とともに個々の経営課題の解決をお手伝いする活動がまさに「ビジネス・インキュベーション」です。

一方、相模原市などとともに地域での産業創出を目指した産業政策に資する活動にも取り組んできました。相模原・町田を中心とする首都圏南西地域から新産業創出を目指した「南西フォーラム」は、今年

担当IMから

SICは、個々のビジネスを創造する場であるとともに、多くの方々の出会いや交流の場でありたいと思います。SICが触媒となりビジネスの火を灯し、地域での産業創出という光明に繋げていきます。来年で成人式を向かえるSIC、さらに皆様・地域のお役に立つように、皆様とともに創造していきます。



取締役 事業創造部長
安藤 重夫

相模原出身。相模原市に入庁、教育委員会青少年課で青少年団体育成、総務部職員課で給与支給・人件費積算管理、都市交通計画課でバス対策、鉄道計画(夢のリニア中央新幹線新駅が現実化しました)などの業務を踏まえ、SIC-1オープン直後のSICへ出向、皆様の熱い情熱をいただき社員となり、現在に至ります。

イタリアンカフェ ピアチェーレ

ITRIAN CAFE Piacere

上溝にある隠れ家のようなイタリアンのお店をご紹介します。まずはバスタランチセット。メニューからご主人のオリジナルソースのフレッシュトマトとモzzarellaのトマトソース、海老と季節野菜のスパイシー、ホタテと大葉のメンタイをチョイス。どれも具がいっぱいで味にコクがあって美味しくいただきました。

来年20周年を迎えるピアチェーレ。大手レストランで修行をされたご主人は、ビルの中のレストランではなく緑があって日当たりの良い明るいお店を持ちたいと上溝で始められたそうです。昼食時は混んでいるので、ちょっと時間をずらすといいかも知れません。

相模原市中央区上溝2179-4シルバールマンション1F Tel. 042-761-0072
営業時間 ランチ 11:00~15:00 ディナー 17:00~21:00(予約OK)
定休日 毎週月曜日(ディナーは金・土・日のみ営業→貸切の場合は応相談)



ランチセット@1450円
フレッシュトマトと
モzzarellaのトマトソース



海老と
季節野菜のスパイシー



ホタテと大葉のメンタイ



マスター



SIC 地域企業サポート事業

～会社成長のサポート、
「安心」と「信頼」のSICにお任せください。～

事業を進めるにあたり、信頼できる専門家のサポートを活かすことは、確かな経営の近道です。SICでは、創業より19年間、専門家を活用した地域企業の皆様の支援に取り組んでいます。企業の皆様、専門家、SICスタッフの三者で進める会社成長のプログラムのため安心、信頼の好評のもと、ご利用をいただけてきました。長年の支援現場で実績ある支援メニューです。ぜひ、ご相談ください。

1.セレクト支援

①販路開拓支援(会社案内、製品紹介、ホームページなど)

新製品や会社をPRしたい！当社専任デザイナーによる製品紹介、会社案内などの販促支援ツール、自社ブランドの印刷物、オリジナルなWEBサイトの作成を支援します。
・会社案内 ・製品紹介 ・ホームページ など

②展示会出展支援(展示計画から当日の装飾運営まで)

展示会出展で新たな顧客を獲得したい！効果的な展示会出展のための企画の検討、装飾、資料、展示会運営など手馴れた出展サポート企業を活用した支援を行います。

③特許出願(知的財産権調査、取得)

発明した技術を守りたい、製品名やロゴマークを安心して使用したい！SIC入居の特許事務所と連携し、知的財産権の調査、取得などの知的財産戦略を支援します。

④契約支援(契約書作成、契約書法的確認)

取引相手との契約トラブルを防ぎたい、取引先からの契約書を調べたい！企業の法務支援を得意とするSICに入居の弁護士による各種契約書の作成、リーガルチェックを行います。

2.スタンダード支援

①経営支援(川津公認会計士事務所)

企業支援の現場で多くの企業の経営相談、事業承継相談を受けてきた実績のある公認会計士が中小企業のための経営支援をします。

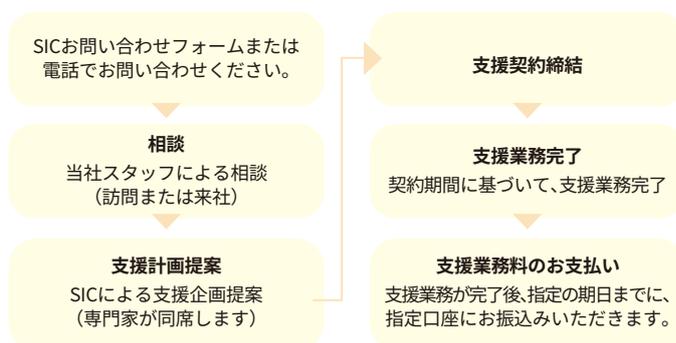
②技術支援(さがみはら表面研究所)

技術相談、技術の評価・分析、大学等研究機関とのコーディネート、補助金申請支援などの技術支援をします。

③労務支援(鈴木道士行政書士・社会保険労務士事務所)

企業経営者とともに企業の労務を考えてきた実績ある社会保険労務士が中小企業のための労務支援を行います。

3.支援の流れ



4.問い合わせ先

株式会社さがみはら産業創造センター 事業創造部 担当:五島
電話 042-770-9119(代表) FAX 042-770-9077

詳しくは、SICホームページをご覧ください。

<https://www.sic-sagamihara.jp>

編集後記

人がもたらした地球温暖化の影響とも言われている夏の酷暑や関西の大型台風による被害と北海道での地震の被害、日本中の人々を不安にする自然災害が続きました。一日も早い復興をお祈りいたします。

SICでは、SIC-2増築棟の起工式を終え、今月から工事が始まりました。来年の夏に完成予定です。工事の間、お客様や近隣の皆様にはご迷惑をお掛けします。SIC-2へご来社のお客様は、SIC-1からお越しくくださいますよう、お願いいたします。どうぞ宜しくお願い致します。



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想をお待ちしています。

ウェブサイト <https://www.sic-sagamihara.jp/>

2018.9 SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

9月 8日(土)～	SICカイゼン・スクール2018開講
9月18日(火)	SIC入居者交流会「食欲の秋！ご飯祭り！！」
9月20日(木)	「The HINT41」(SICミニセミナー)
10月 2日(火)	産業用ロボットビジネスフォーラム
10月23日(火)	情報自動化セミナー(IoT,All)
11月15日(木)	ロボット操作教育(実習コース:KUKA)
12月 5日(水)	経営者セミナー
12月 5日(水)～ 7日(金)	Sler養成講座
12月20日(木)・21日(金)	ロボット操作教育(基礎コース)



入居企業を募集してます。

SIC空室情報(平成30年9月15日現在)※お気軽にお問い合わせください。

部 屋	空室数	賃料/月額 (共益費込・消費税抜き)
SIC-1	○スモールオフィスA(23.6㎡) ○スモールオフィスB(17.3㎡)	3 1 78,700円 64,200円
SIC-2	△セミラボ(50.2㎡) ※2019年1月以降入居可能	1 172,700円
SIC-3	空室はありません	-